



大図研近畿3支部新春合同例会 2013 のご案内

『中之島図書館：挑戦の歴史とこれから』

前田章夫さんをお迎えして「中之島図書館：挑戦の歴史とこれから」と題してご講演いただきます。多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

講 師：前田 章夫氏（元・大阪府立図書館）

日 時：2013年1月26日（土）14：30開始（14：00開場）

会 場：キャンパスポート大阪 ルームA
※大阪駅前第2ビル 4階

<http://www.consortium-osaka.gr.jp/about/access.html>

定 員：35名（先着順）

申込方法：大図研近畿3支部新春合同例会 2013 申込フォーム
（<https://sites.google.com/site/dtktdoi/home/2013kinki3/apply>）
からお申し込みください。

（締切：1月21日（月）17：00）

参加費：無料（大学図書館問題研究会の会員でない方も無料です）

その他：例会終了後、懇親会を予定しています（先着20名、予算5,000円程度）。
※懇親会参加希望者は、会場予約の都合がございますので、必ず1月21日までに
お申し込みください。

[目 次]

大図研近畿3支部新春合同例会 2013 のご案内	…	1
図書館総合展参加報告	坂本 拓	… 2
わたしの図書館紹介します! 「京都大学理学部中央図書室」	由本 慶子	… 4
新入会員挨拶	森彩乃, 小林奈緒子	… 6
緊急予告! 大図研京都ワンディセミナー		… 8
「APU(立命館アジア太平洋大学)探訪と別府湯けむり温泉企画」のご案内		

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

図書館総合展参加報告

坂本 拓

■はじめに

2012年11月20日から22日まで開催された、図書館総合展に参加させていただくことができましたのでその報告をここに記させていただきます。

私は3日間で、合計6つのフォーラムに参加いたしましたが、その全てについて報告することはせずに、共通のテーマを扱った2つのフォーラムについて書かせていただきます。その二つのフォーラムとは、①エルゼビアジャパン主催の「研究業績を把握して研究支援につなげる具体策:ー図書館員も知っておきたい研究マネジメントの最新動向」と、②NPG ネイチャーアジア・パシフィック シンプレクティクリミテッド主催の「Symplectic Elements:新世代研究情報管理ソリューション:ーリサーチアドミニストレーション、研究戦略立案の切り札」です。どちらも長い名前のフォーラムですが、内容としては、「研究業績評価」が大学にとっていかに重要となっているのかということと、そしてそのために有効なツールを紹介したものでした。

■「研究業績を把握して研究支援につなげる具体策」報告

まず、エルゼビアのフォーラムの方から報告させていただきます。現在日本の大学・研究機関は、発表論文数、国際的な共同研究の数、という2つの観点から、相対的に他の先進国に比べて大幅に遅れをとっている、ということがデータを提示しながら説明されました。このような状況において文科省が発表した『大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～』では、大学の研究力強化が重要な目標として掲げられており、また「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング 2011」という報告書では、各大学がどの分野に強いのかを分析した上で、各大学の個性を生かすための戦略を持つことの必要性が書かれています。

これらを踏まえて、各大学が、自機関はどの分野で効果的な業績を挙げているのか、また、どの国との共著論文が多いのかを把握することのできるツールとして、“Scival Spotlight”という製品が紹介されました。これを応用することで、自機関と同じ領域で同様に精力的に取り組んでいるが、まだ共同研究(共著論文執筆)がなされていない海外の大学を炙り出すことが可能になったりします。加えて、“Scival Experts”という製品が紹介されましたが、こちらは、自機関のどの研究者が何を研究しているのか、が一瞥して理解できるようになるweb ページを作成するためのツールです。これにより研究戦略を立案する側としては、対内的に自機関の現状把握が可能になるとともに、対外的には、研究者の「見える化」を進めることができる、というものです。

私個人の感想としては、これらのツールが大変有益なものであることは間違いありません。しかしながら、“Scival Spotlight”、“Scival Experts”どちらも、モトは同じScopusに収録されているデータでしかありません。つまり、Scopusに収録されている論文数とその被引用数に基づいたデータの関連付けと出力方法をアレンジしただけのものです。エルゼビアの、現有している資源の流用の上手さを改めて感じました。

■「Symplectic Elements:新世代研究情報管理ソリューション」報告

次に、ネイチャーのフォーラムの報告です。こちらは個人的には刺激に満ち溢れた90分でした。講演は物理学の研究者であるダニエル・フック博士によって行われ、最終的にはSymplectic Elementsというツールの紹介へと到達するのですが、そこに至るまでに、非常に丁寧な「研究支援」「研究業績評価」に関する解説が行われました。現在、日本も含めて世界各国で、“University Research Administrator”(以下URA)という存

在が重要になってきている、というところから話が始まります。URAとは、大学内で、研究支援に特化したプロのスタッフのことで、まだ活動の歴史は浅いが、世界各国にURAの協会があるとのこと。そして、オーストラリアやニュージーランドでは、URAとライブラリアンの連携の事例もある、とのことで、フック博士は、ライブラリアンが研究支援の領域でできることを何点か挙げてくださいました。これについては、また後で述べます。

そして、研究業績評価(Research Evaluation)については、各国で様々な指標があります。英国では、初めてビブリオメトリクス(執筆した論文の被引用回数に重きを置く評価法)を盛り込んだRAE(Research Assessment Exercise)という評価システムをこれまで用いていましたが、新たにREF(Research excellence Framework)というシステムに最近切り変えたそうです。それに対して米国ではSTAR METRICSというシステムが用いられており、これは、当該研究がどれだけの資金を産出したのか、を重視するものです。他にも様々な国のシステムを紹介していただきましたが、やはり国によって全く異なるのだと改めて感じました。

そして、Symplectic Elementsというツールの紹介です。このツールは、研究者が自身の研究成果を、リストのような形でまとめる時に複数のデータベース等から、一度に結果を引っ張ってくるができる物です。具体的には、研究者が、自身の研究成果を検索するためのプロフィールを作成さえすれば、後は自動的に、複数のDBにその検索プロフィールが送られ、合致する結果が一覧になって、研究者のもとに戻ってきます。研究者はその中から、自身のものを選択することで、簡単にリストを作成することができます。また、ここからリポジトリへのアップロードもできるため、オープンアクセスが義務化されている国の研究者にとってはこの点でも利便性の高いものですし、SHERPA/ROMEOにリンクさせることも可能なので、義務化されているケース以外でも、有益でしょう。そして、このように発表論文の被引用数で評価が行われる際、常に問題になるのが、学問領域間によって引用数のアベレージが異なる、という点ですが、将来的にはソーシャルネットワークでの注目度による研究成果の評価を行うAltmetricsにも対応することで、この問題がクリアできる、と仰っていました。

■まとめ

どちらのフォーラムも、研究支援、研究業績評価をとりまく現在の状況を説明された後に、そのソリューションとしてのツールを紹介する、という内容のものでした。しかし、ツールを使うだけなら、URAの方々でも、事務の研究推進関連の部署の方でも可能です。いったい図書館員がここに、どう参画していくことができるのか、というのは、図書館総合展に参加する前から気になっていたことでしたし、実際にエルゼビアのフォーラムでは、参加者からもそのような主旨の質問が出ました。その際にエルゼビア講師の柿田氏は、「執行部がツールの導入を検討する際に、図書館員の意見を求める機会があるだろうから、その際に適切なガイドができる」という趣旨の返答をされていました。また、Symplectic Elementsのフック博士は、プレゼンテーションの中で、何度も、図書館員が研究業績評価、URAと連携する研究支援において果たせる役割について言及されていました。以下、それをまとめます。

- ・研究者の成果である論文が掲載されたジャーナル、そのジャーナルがどれぐらいの相対的価値があるものなのか大学の評価担当部署の者は判断ができず、図書館員ならできる。
- ・URAと共に研究支援を行う際、大学内において、図書館員が最も研究者と多くのアクセスポイントを持っている存在なので、かけ橋となれる。
- ・発表論文の被引用度による業績評価を行う際には分野間によるアベレージの差が発生するため、適切な比較を行うための基礎知識が必要になる。その基礎知識を持っており、研究者に対して公平な評価が行われているということを説明することができるのは、図書館員である。

上の3点を読まれて、疑問を持たれた方もいらっしゃると思いますし、私も実際に持ちました。おそらく、英国・米国等海外のいわゆるサブジェクト・ライブラリアンは、上記の能力を持っており、日本では事務の研究推進部署が現在抱えている業務のいくつかを、ライブラリアンが担当している、ということなのでしょう。図書館員の職域、というのは地域・時代に応じて変化するものです。研究業績評価、URAによる研究支援、これらはまだ日本では、大学内でも手さぐりで進んでいるものなので、図書館員が上手く参画していく可能性が無いわけではないでしょう。そのためにも、常に学内他部署の動きにアンテナをはり、つながりの可能性を探ることが肝心だと思います。

さかもと たく (京都大学附属図書館)

連続企画:わたしの図書館紹介します!

紹介番号 4 京都大学理学部中央図書室

由本 慶子

1. はじめに

京都大学のシンボル・時計台のある本部キャンパスから北へ行き今出川通りをこえたところに、緑の多い北部キャンパスが見えてきます。北部キャンパスには理系の学部や研究所等の図書室が12あり、私の働いております理学部中央図書室もその中のひとつです。

理学部中央図書室は、1981年に発足しました。理学部学部生を主な利用対象とするスタッフ数5名の小規模図書室です。お読みになる方がイメージしやすいよう統計の数字をいくつか並べますと、座席数88席(自習室座席含む)、所蔵資料32,600冊(うち7割が図書、図書のうち7割が和図書)、昨年度の入館者数56,300人、昨年度貸出冊数が17,500冊(座席以外すべて概数)という図書室です。

2. 理学部中央図書室の業務

私は当室に勤務して3年目になりますが、異動後間もない頃に伺った当時の理学部長のお話が印象に残っています。それは「北部構内には理学部生用の十分な居場所がないので、この図書室が居場所のひとつになってくれたらいいと思う」という内容でした。

理系の学生は大学院へ進学する割合が高く、また進学後は研究室というメインの居場所が確保されています。研究室では教員の他先輩後輩と密なコミュニケーションを築きながら、学業に専念することが可能です。しかしながら北部キャンパスと少々遠い総合人間学部キャンパスとを自転車で行き来している学部生にとっては、キャンパス内に集まることや憩うことができる十分なスペースがないことに気づかされます。もちろん北部キャンパスには生協食堂もあり、学部生の授業が行われる理学部6号館には、学部生専用控室や97台の端末が置いてあるメディアセンターサテライト室やベンチが点在するピロティもあります。しかし学生の居場所という観点からみると、教養学部の存在していた時代に比べ学部生用のスペースが大幅に増えたわけではないように見えます。キャパシティの関係があり、理学部中央図書室でも理学部学部生全員の居場所を確保することはできませんが、少しでも多くの学部生にとって、当図書室は自分たちのホームライブラリだという意識を持って頂き、足を向けやすい図書室に、居心地の良い図書室にしたいという思いが私の当図書室での業務を行うベースとなっています。

目標実現のための取りかかりとして、まず図書室の存在をアピールすることを意識しました。理学部生にとって役に立つ、また興味を引きそうな資料を揃えているのにもか

かわらず、残念ながら図書室に一度も足を向けないまま卒業してしまう学部生が少なからず存在しています。そのような対象に向けて、何か働きかけができないかと考えた取り組みのうちのいくつかを紹介します。

ひとつめは理学部中央図書室ライブラリニュース（図書館報）の発行です。教務掛にお願いして年2回、秋は成績表交付の際に、春はガイダンスの資料の一部としてとして、学部生全員の手元にニュースが配布されるようにしてもらいました。ニュース内容は、図書室の場所、資料の紹介、講習会開催情報などの定番記事の他、特集記事を載せています。特に学期のはじめに配布されることから、教科の手引き（シラバス）に掲載されている教科書・参考書で入手可能な図書については全て図書室で揃えている旨の記事を、毎号記載するようにしています。私が異動する前より教科書・参考書類は年度初めに揃えていましたが、そのことをニュースに改めて書くことで、ホームライブラリという意識をもって頂けるのではないかと考えました。

ふたつ目は図書室ガイダンスです。従来5分だった新入生ガイダンスの持ち時間を、お願いして昨年度から30分頂けることになりました。内容は、当図書室の場所や利用ルールの説明の他、学内の他の図書館室の紹介やOPACの簡単な検索についての説明などを行っています。図書室主催の講習会を何回も開催していますが、たくさん来て頂いたとしても参加者は100人も集まりません。ガイダンスは新入生320名がほとんど全員出席されるまたとない機会です。新入生への”First 30 min.”を通して、新入生に図書室の存在を覚えてもらい印象づけたいと思っています。

また新しい取り組みとして先月より図書室ツイッターを開始しました。始めたばかりで毎日イチツイートが精いっぱい、つぶやきのネタに困る日もありますが、大学サイトはあまり見ないがツイッターは始終見ている学生も多い昨今、なんとか良い広報手段へ将来的に育てていきたいと思っています。

これらのご紹介した取り組みについて、全て結果が出ているわけではありません。私が異動する前と後と比べ貸出冊数は増えているものの入館者数は減っており、講習会でも学生数よりスタッフの数の方が多い時もありました。仕事が自己満足に終わらないようにと時々自戒はしているつもりですが、なかなか決定打が思い浮かばずいつまでたっても手探りが続いている状態です。

3. 理学研究科図書掛の業務

これまで理学部中央図書室や図書室での業務を紹介して参りましたが、これとは別に私は理学研究科図書掛の一員としての業務も行っています。図書掛の業務内容としては、理学研究科には院生教員を主な利用対象としている6つの教室図書室があり、それら教室図書室との連絡調整や、理学研究科全体の資産図書管理などがあげられます。研究科全体で20数万冊ある資産図書ですが、研究科内に紙の帳簿（供用簿）が揃っていません。創立から110年以上経ちますと所蔵している資料にもいろいろな歴史（経緯）があり、管理が頭の痛い問題となっています。簡便に資産管理ができるようにするためのひとつの方法として、早めの遡及入力完了を目指しています。

その遡及入力に係わる仕事で、阿蘇の火山研究センターや飛騨高山の附属天文台へ行く機会がありましたので、少しご紹介します。理学研究科にはこの2施設を含めて4か所の附属施設があり、それぞれの施設で約千冊～5千冊の資産図書を所蔵しています。現地に図書職員がいないため、現地での入力作業ができません。そこでアルバイト学生や業者に依頼して、現地で資料のコピーを取ってもらい（情報源の部分のみ）、そのコピーを基に現在図書掛内で遡及作業を行っています。

現地の書庫状態や資料の確認のために訪れた阿蘇や高山では、通常見ることのできない景色等を現地の方に見せて頂きました。阿蘇では、ヘルメットを装備して連れて行ってもらった阿蘇火山・中岳火口湖のきれいなエメラルドグリーンの色、立ちのぼる硫黄のにおい。高山では、大きな望遠鏡ドーム屋上から見せて頂いた360°の絶景・アルプスの山々の連なり、観測所に宿泊した夜に大望遠鏡で見せて頂いた土星の輪（カッシーニ

の隙間まで見ることができました!) などなど。もちろんそれぞれ街から離れた山の上に施設があるため現地教職員の方々よりご苦勞が絶えない話を伺いましたが、厳しい環境の中でも現地の教職員の方々のチームワークの良さが伝わってきて、それが印象に残っています。

4. さいごに

「わたしの図書館紹介」というよりは、私個人の仕事の紹介にシフトした文章となりましたのをお詫び申し上げます。どのようなことでも結構ですのでお読みになったご感想やご意見などを頂けたら幸いです。

*写真 : 図書室のある理学部 6 号館建物外観
図書室内
大望遠鏡で覗いた土星の写真



ゆもと けいこ (京都大学理学部中央図書室)

京都支部：新入会員挨拶

2011-2012 年度より、新しく京都支部に加入して下さる会員の皆様にご挨拶をいただきました! 今後、順次掲載をしてみたいと思いますので、どうぞお楽しみに!

● 森 彩乃さん

『名古屋からはじめまして』

いつもお世話になっております。この度大図研京都支部に入会しました、名古屋大学理学部図書室の森と申します。私は出身大学もこの大学の文学部で、名古屋大学に在籍して7年目になります。勤め始めてからは最初の2年は中央図書館で目録業務を担当し、今年度からは理学部の図書室で図書・雑誌・閲覧業務など広く浅くやっています。京都での活動に名古屋から参加しますが、どうぞよろしく願いいたします。

この支部報での自己紹介という貴重な機会をいただいたので、私が大図研に入会したきっかけと理由、抱負を書かせてください。

私が大図研に入会したきっかけは、8月の京都での第43回大図研全国大会です。発表者や参加者、そして全国大会の運営をされていた京都支部の皆さんを見て大図研で皆さんと活動してみたいと思いました。私は日頃から人と大学図書館業界の色々な考え方・情報を交換したり、人的ネットワークに加わって相互に刺激を受けられるようになっていきたいと思っているのですが、京都支部の皆さんの熱を見て感じて、京都支部でそれを叶えられそうと思って飛び込ませていただきました。

ところで、私にとって大学図書館は本当に変化のめまぐるしいところです。2000

年代半ばの私の大学入学当初は、名古屋大学の中央図書館に行けば入って正面に大量のカード目録と冊子目録が鎮座していましたが、そこも今や立派なラーニングコモンズに改装されました。学生時代、あんなに頑張って冊子体でひいた日本国語大辞典や国史大辞典も今ではデータベースで全文まで一瞬で検索できます。少し前に退職された図書館員の方に昔の目録業務の話とか学総目や雑索を使ってハガキでILLを依頼した話を聞くと、これから同じ年数だけたった将来の図書館に起こる変化は今ひとつ想像できません。

これまで研修や国内外の視察に行かせてもらい、学会やフォーラムなどに参加してきたのですが、いつもそこで出会う人と話すと自分が見ていたものの視野の狭さに気づかされ、新しい視点や考え方に気づかされます。こういう人が第一線で活躍して図書館を進化させていっているのだなあとしみじみ思います。

これからも大学図書館はそういう業界で、今までとは違う仕事・サービスをし続けて新しい図書館になっていくに違いないですが、それを作っていく人に私も加わりたいです。普段はやはり日々の業務に追われがちですが、大図研に京都支部に身を置いて新しいことに挑戦したいです。大図研全国大会以後、「図書館業界は西高東低」という言葉をたまに耳にするようになりました。京都以西はエネルギーがあって熱いと私も感じているのですが、渦中に飛び込んでその熱を名古屋以東にも伝播させたいという野心もあります。これから皆さんと活動させていただけるのを嬉しく楽しみに思っております。どうぞよろしく願いいたします！

もり あやの (名古屋大学理学図書室)

● 小林 奈緒子さん

今回、京都支部へ入会させていただきました、島根大学附属図書館の小林奈緒子です。現在、情報サービスグループ・資料利用担当で、利用サービスの業務に携わっています。図書館歴はまだまだ短くて、2006年に遡及入力非常勤職員として採用され、2010年に学内の事務職員登用試験に合格し、2011年4月に正規職員として図書館へ正式配属されました。その間、2人の子どもの恵まれ、現在5歳(長男)、2歳(長女)と夫4人であわただしくも楽しい毎日を過ごしています。

図書館に話を戻すと、非常勤職員のころは、研究室にある古いカード貸出図書の点検および遡及入力から始まり、これが終了すると、次に図書館に眠っていた旧制松江高等学校・島根師範学校時代の古い資料の遡及入力を行いました。どちらも、埃との戦い(?)でしたが、この遡及入力時に、本校の卒業生である永井隆氏のサイン入り寄贈本が数点発見されました。永井隆は、本学卒業後、長崎大学へ進学し、1945年8月9日長崎大学で原子爆弾に被爆した後も救護活動を行い、広く地域の人々に慕われた人物です。そういう貴重な資料を発見できた喜びもありました。

また、2011年採用後は3ヶ月間図書受入を担当した後、出雲市にある医学図書館へ異動となり、図書全般の業務に携わりました。医学図書館は少人数のため、総務系の仕事も担当していました。また、広報誌『インフォ・アクセス』の編集も携わりました。広報誌って難しい…。担当された方は、一度は実感することではないでしょうか。今年の10月に現在の職場へ異動となり、サービス業務と、本館の広報誌『LiMe:ライム』を担当しています。ぜひ機会がありましたら手に取ってみてください。本学図書館HPからでもご覧いただけますので。みいなちゃんはじめ、島大図書館のマスコットキャラクターがあなたをお待ちしています。

自己紹介なので、少し自身の話も。出身は長崎県長崎市ですが、3歳までは千葉県習志野市で暮らし、その後長崎へ戻りました。大学入学時に島根県人となり、以来16年の月日が経ちました。しかし、いまだに地域のお年寄りが話す出雲弁はマスターできません(とっても難しい!)

趣味は特にありませんが、ライフワークとして、戦後史の研究をしています。戦後社会運動史が主たるテーマで、修士までは長崎における被爆者運動史の前史部分を対象と

していました。現在は、終戦後勃興した戦災者組織の活動やその実態について調査・研究しています。今は地域の事例を掘り起こしている段階ですが、戦後社会運動史における戦災者組織の歴史的な位置付けが出来ればと思っています。その関係で、時々関西へも史料調査へ来ています。

そんな私が司書の仕事に興味を持ったのは、大学院時代に図書館で受けたレファレンスに感動したからです。ネットでも探せなかった情報を、いとも簡単にその方は自分の持つ知識でもって1冊の図書を私に提供してくださったのですが、それは数ある図書館資料を知り尽くしていなければ出せない回答だと思います。今もそのレファレンスをしてくださった職員さんは、同じ職場で働いています。いつか自分も、そんなレファレンスが出来る図書館職員になれたら…と思いつつ業務にあたっている、今日この頃です。この機会に、色々と皆さんから吸収して業務に役立てられたらと思います。どうぞよろしくお祈りします。

こばやし なおこ (島根大学附属図書館)

緊急予告！大図研京都ワンディセミナー 「APU (立命館アジア太平洋大学) 探訪 と別府湯けむり温泉企画」のご案内

2013年2月16日(土)～17日(日)にかけて大分県別府市にあるAPU(立命館アジア太平洋大学)を訪問！大学&図書館見学に加え、国内有数の温泉、別府グルメも満喫！現在、さらなる企画を盛り込むべく調整中です。お楽しみに！



お申し込みは以下より受付しております。

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/event/20130216.html>

最少催行人数確認のため、締め切りは1月27日となっております。

支部報ではじめてご確認いただきご参加希望の場合は、急ぎお申し込みくださいませ。

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2012年度(大図研会計年度2012.07 - 2013.06)に入っておりますので、2012年度の会費の納入をお願い致します。また、2011年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部(kyoto@daitoken.com)まで。